

奉協  
仕力勤誠  
勉実

創立52年



秩父地域唯一の商業高校

埼玉県立 皆野高等学校

minano high school

HPアドレス <http://www.minano-h.spec.ed.jp> TEL 0494-62-2076

## 「敗者のメンタリティ」から学ぼう！

先月、本校の誇る偉大な先輩 新井涼平選手がロンドンの世界選手権に連続出場しました。今後も世界一を狙ってほしいと願っています。またこの夏は、世界水泳や野球と何かと、スポーツの夏という感じでした。それぞれの大会期間中、テレビや新聞は、メダリストたちのことを繰り返し報道していました。それぞれの代表として、感動しましたし、称賛を送りたいと思います。

しかし、私の心が揺さぶられたのは、敗者となった直後にアスリートたちがみせる精神力の強さです。敗者とはいえ、メダリストと全く変わらない努力を続けてきたのに、自分に突き付けられているのは受け入れがたい残酷な結果だという現実。この現実をゆっくりと受け入れる暇さえ与えられず、インタビューという名でスポットライトを浴び、衆人の前へと引っ張り出されることの辛さ。これは、普通の人間だったら絶対に耐えられないことです。ほとんどの人間は、失敗の直後は失敗を他のせいにして、言い訳を考えたりするものです。そして敗北してしまった「情けなくて恥ずかしい自分」を見られたくなくて、誰にも会わないように、そして誰とも喋らないように、こっそりとその場から抜け出したいくなるものです。普通の人間だったら、誰もいない場所で涙を流し、自分の不甲斐なさにいじけながらひっそりとしていたいものではないでしょうか。しかしアスリートは違いました。ほとんど例外なく、涙を必死でこらえながらカメラの前に立ち、スポットライトに顔を照らされながらも歯を食いしばってカメラに顔を向けて、潔い敗北の弁と、次なるチャレンジへの気持ちを述べていました。

ここがアスリートたちの凄いところなのです。人生において、最も大きな失望の中に突き落とされた直後に、言い訳せずに潔く自分の敗北を認め、次の目標に向かって、また長い旅を続ける決意を述べるのは、並大抵の精神力の強さではありません。しかし、考えてみれば、挫折と敗北を知らないアスリートなどいないのです。今回の勝者たちも、過去に挫折と敗北を素直に認め、それと勇気をもって向き合ってきたからこそ勝者になれたのです。もしも「勝者のメンタリティ」というものがあるならば、それは挫折を再挑戦へのバネに変えられる精神力ではないでしょうか。普通の人間は、挫折を絶望に終わらせてしまう場合がほとんどですが、勝者となる者は再挑戦へのエネルギーに変えていく逞しさと、未来のどこかにある勝利を信じて、ひたすら努力を重ねていけるひたむきさを持っています。この精神力があったからこそ、メダリストたちは勝利を掴むことができたのではないのでしょうか。

さて、今学期は学校行事が目白押しです。クラスの団結力と、個人個人の責任感が問われます。責任と信頼の意味を考え、皆さんが学校行事を通じて、社会性や協調性を高めてくれることを願っています。それでは、2学期のみなさんの健闘を祈ります。

【昨年度2学期行事（一部）の様子】



修学旅行



クリーンキャンペーン



朗読会



校内読書会



秋桜祭



山かけ



門松づくり



幼稚園社会見学来校